

『ライオンと魔女 ナルニア国物語1 カラー版』

C. S. ルイス／著
瀬田 貞二／訳
岩波書店（2005年）

ロンドンに住む4人のきょうだいは、戦火を逃れて、田舎にある古いお屋敷に疎開しました。4人はお屋敷を探検して、古い衣装だんすを見つけました。衣装だんすは奥へ奥へと続いていて、ついには雪の降る森に出ました。衣装だんすは、ナルニアという王国につながっていたのでした。ナルニアは今、白い魔女によって永遠の冬に閉ざされています。ナルニアをめぐる冒険の旅が始まります。



『会社員 自転車で南極点に行く』

大島 義史／著 小学館（2016年）

雪と氷に覆われた土地、南極大陸。非常に過酷な環境ながら、まばゆい白い地平や澄んだ青い空は絶景と言える美しさです。学生時代、自転車旅行を趣味にしていた著者は、図書館で見かけた南極冒険記の写真に心を奪われ、自転車で南極を走れたらと考えるようになりました。忙しい日々^{せわ}に追われるうちにその思いは記憶の底に埋もれていきますが、数年後ふたたび南極の本と出会い、一般人でも観光できると知って情熱がよみがえります。しかし、夢の達成までには多くの困難が待ち受けていました。



『みつきの雪』

眞島 めいり／作 講談社（2020年）

小学5年生の少女、^{みつ}満希の住む信州の村に「山村留学生」として行人がやってきた。5年生は満希と行人のふたりしかいないが、行人の前に山村留学生としてやってきた子とうまくいかなかった満希は、行人と馴染むことができなかった。しかしある雪の日にとあるきっかけがあり、ふたりは本音で何でも話せる友達になった。そんなふたりは高校3年生となり、明日卒業する。村で農業を継ぐ満希と村を離れる行人。満希は行人が村を離れることが寂しいが、行人の将来を考えて言えずにいた。高校最後の日、ふたりは何を話すのか。



『疾風ロンド』

東野 圭吾／著 実業之日本社（2013年）

医科学研究所に勤めている栗林は、恐ろしい病原菌である「K-55」の実質的な管理責任者だ。そんなある日、「K-55」が盗まれてしまい、犯人から場所を教えてほしければ3億円を用意しろと脅迫を受けることとなる。ところが、その犯人が事故で亡くなり、場所を聞き出す術がなくなってしまう。栗林は、上司から病原菌の回収を命じられ、少ない手がかりを頼りに病原菌が隠された場所を探すこととなる。果たして、被害者を出すことなく無事に病原菌を回収することができるのか。



『雪だるまの雪子ちゃん』

江國 香織／著 山本 容子／銅版画
偕成社（2009年）

雪だるまの雪子ちゃんは人の手で作られていない野生の雪だるまです。未曾有の大雪の冬、ふりしきる大小の雪ひらのなかに、どう見ても大きすぎるかたまりがふわふわおりてきました。雪子ちゃんは氷水の入ったタイヤに入り隣人の百合子さんたちとトランプをしたり、気がむけば小学校に行って勉強したりと冬の生活を乐しみます。皆さんは野生の雪だるまってどういうこと？と思われるでしょう。雪子ちゃんは自由な意思を持っています。そして暖かくなったらなんと休眠するのです。これはもう「野生動物」以外のなにものでもないですよ。



『楽しい雪の結晶観察図鑑』

武田 康男／著 緑書房（2020年）

冬です。雪が降ってきました。その雪の中に少しだけ雪の結晶が混じっています。よく知られている形は六角形ですが、他に針や鼓の形をしたものもあります。2012年に雪の結晶は形によって分類され、その数は105種類もあります。また、幕末には土井利位^{といつら}が日本初の図鑑「雪華図説」を記し、雪の結晶は「雪華」と名付けられ、美しい図案として着物や工芸品、家紋にも使われました。六角形のもの^{こと}は切り絵にした方も多いこと^{こと}でしょう。さあ、寒い冬の日、雪の結晶を楽しんでみませんか。

